

「3つの合言葉」元気・学び・会話

# 町の子供は町で育てる 滑川町教育委員会だより

「学んでよかった町へ -チーム滑川での教育-」

## ブレイン・ロット(brain rot)から自分を守ろう！

年末年始は、スマホやSNSの過剰使用に警鐘を鳴らす報道が多く見られました。いくつか紹介したいと思います。

年末恒例の「今年の漢字」。2024年は「金」（キン、かね）でしたが、イギリスでは、オックスフォード大学出版局が24年の言葉として**brain rot(脳腐れ)**を選出しました。出版局の定義は「精神、あるいは知性の状態が劣化した様子。特に、取るに足らない（オンライン）コンテンツの過剰消費の結果とみなされるもの」です。「脳が腐る」とは恐ろしい言葉ですね。（2024年12月31日 毎日新聞朝刊、2025年1月7日 毎日新聞夕刊）

オーストラリア議会は、昨年11月29日までに16歳未満の子供がSNSを利用することを禁止する法案を可決しました。インスタグラム、フェイスブック、TikTok、X（旧Twitter）などが対象となります。これらの事業者アカウント作成時の厳格な年齢確認を義務付け、違反には最大4,950万ドル（約50億円）の制裁金を科すということです。背景にはSNSが絡んだ性犯罪やいじめ、自殺の多発があります。世論調査では77%がこの法的な規制を支持しています。（2024年12月12日 毎日新聞）

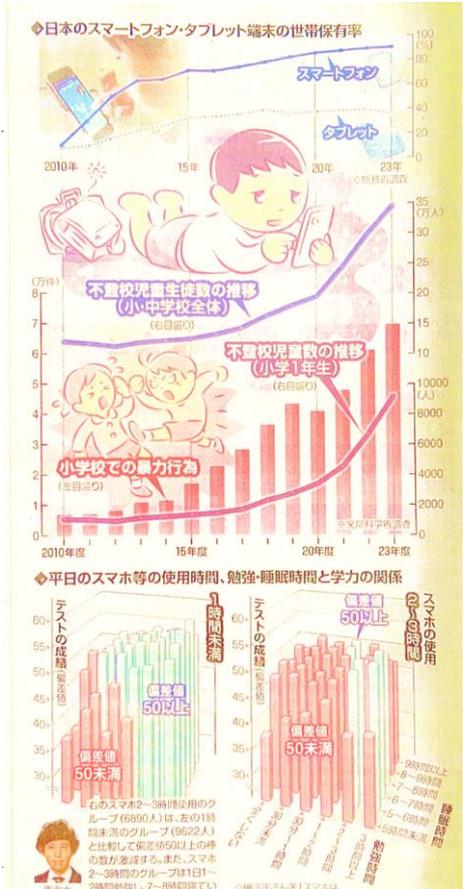
埼玉大学教育学部長 戸部秀之教授（学校保健学）は、2022年に全国の養護教諭990人に行ったアンケート調査の結果から「不登校、保健室登校、登校しぶり等、学校生活に不応適を示す児童生徒」「ストレス等不安定な精神状態を示す児童生徒」「友人関係の形成やコミュニケーションに困難を示す児童生徒」が増加しており、その背景要因として80%の養護教諭が指摘したのは、ゲーム・インターネットの過剰使用だとしています。（2024年12月30日 毎日新聞）

「非認知能力」の重要性が叫ばれています。自分の感情を制御したり、他者の気持ちを推し量ったり、先を見通して我慢する力などです。これらの力は点数化できないので非認知能力といわれます。この力は、大脳の前頭前野で司られていますが、その発達にデジタル端末が及ぼす影響の研究が進んでいます。

「スマホが子供たちの脳を破壊している」東北大学応用認知神経科学センターの榑浩平助教は断言しています。東北大学では2010年度より仙台市教育委員会と共同で約7万人の小中学生に対する調査を実施し、学力検査の偏差値、学習時間、生活習慣、デジタル端末との接触時間を多角的に分析しました。その結果、デジタル端末から一方的に情報を浴びる時間が長いほど、前頭前野の発達が阻害され学力が低くなると結論づけました。

特にスマホやタブレット端末での動画視聴や交流サイト（SNS）の使用は、依存性が高くなります。榑浩平助教は、「学力低下だけでなく、不登校とも双方向的な因果関係がある」と指摘しています。スマホ依存の子供は生活習慣の乱れや心身の不調から不登校になりやすく、不登校の子供は家にこもってスマホ依存になりがちだからです。（2024年12月23日 東京新聞）

**brain rot(脳腐れ)**という言葉は、子供の現状を心配した大人が使うようになったものではありません。若者たちが自嘲的に使っているうちに広まった言葉です。このことに関して「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー」の著作で知られるブレイディみかこさんは「デジタルネイティブの世代が『脳腐れ』を自覚してはやらせたのは、SNSが私たちの生きる泥くさい日常と違うと気づき始めたから。人間性とテクノロジーの関係をどう考えるのか、世界中で問い直しが始まるかも知れません」と希望を感じながらコメントしています。賢明な滑川町の子供たちには、人間性とテクノロジーの在り方について「問い直し」の先陣を切ってくれることを期待します。



2024年12月23日 東京新聞

# サンタクロースって ほんとに いるの？

12月24日のクリスマスイブ…子供たちにとってはサンタクロースのイメージとともに特別な響きを持つ日なのではないでしょうか？でも小学生も3, 4年生ともなればサンタの存在を疑います。「サンタさんているのかな？」「そんなもんいるわけないじゃん。まだそんなこと信じているの？」教室では、こんな会話が聞こえてきそうです。

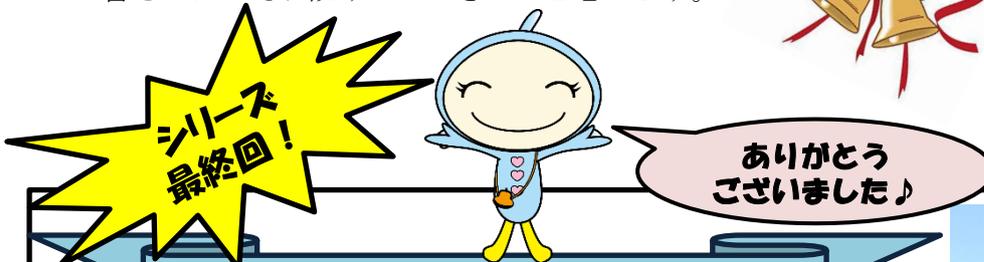
直木賞作家の今村翔吾さんが「サンタクロースって ほんとに いるの？」(てるおか いつこ文 すぎうら はんも絵 福武書店)という絵本を紹介していました。(2024年12月16日 毎日新聞)

「私、サンタさん来たことないねん」今村さんが20代の頃にお付き合いしていた女性の言葉だそうです。詳細は省きますが、今村さんは当時考えられるベストな演出でその女性にサンタさんからのプレゼントを用意しました。そのプレゼントに彼女は膝から頰れて号泣したそうです。その時、今村さんは気付きます。「サンタクロースは子供にとって、すごく、すごく大切なのだ」と…

今村さんは、現在、「作家サンタ」という作家さん(小説家・文筆家・絵本作家など)が全国の大変な境遇にいる子供たちに今読んで欲しい本を選んで贈る『ブックサンタ』特別プログラムの発起人を務めています。

**サンタクロースはいない。小学生にもなれば、いや早ければ保育園、幼稚園に通うようになれば、一度は耳にするかもしれない一言だ。一端の大人になった今、胸を張って答えたい。サンタクロースはいると。いる。そして、誰でもなれる。私はそう信じています。**

今村さんの言葉です。私は、紹介された絵本を図書館で借りて読みました。この絵本は、子供がサンタクロースの存在を尋ね、大人がそれに優しく答える、それだけの内容ですが、作中で「サンタクロースはいる」と答えるシーンが続きます。私はとても感動してしまいました。大人の皆さんにこそお読みいただきたいと思います。



## 「滑川町の城館跡」 part 7

### 大堀館跡 中世 (詳細時期不明)

大堀館は、館についての資料がなく、詳細は不明ですが東西180m、南北200m程の方形の館跡とされており、館の北側と西側の一部に土塁と空堀が残っています。

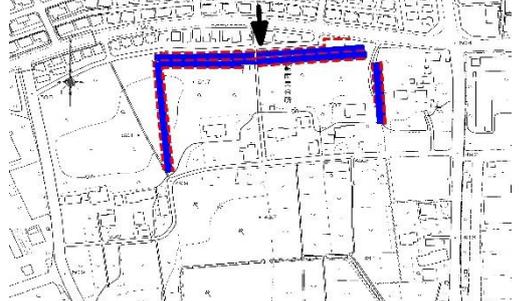
北側の土塁は、幅約5m、深さ約50cmで長さは約200mあるとされており、堀の大きさから地元では館のことを百間堀と呼ぶこともあります。一部は2本の空堀が3本の土塁に挟まれた形となっているのが特徴です。

月輪にあるこの館跡はかつて月輪殿と呼ばれた九条兼実と関係があり、九条家の荘園があったのではないかと考えられていますが、それを裏付ける資料はなく、詳細は不明です。



大堀館跡北側からの遠景

土塁(破線)と空堀の推定ライン



大堀館跡推定図  
(高柳茂氏提供図を基に作成)